

令和7年度  
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	理科	学年	3	年	時間数	140	時間
----	----	----	---	---	-----	-----	----

教科書名	新しい科学3年 新編化学基礎	出版社名	東京書籍
------	----------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一 学 期	4	単元2 生命の連続性	1 生物の歴史 2 水中から陸上へ	○			<b>授 業 の 概 要</b> 理科は、物質やエネルギー、生物や自然に関する内容を単元ごとに入れ替えながら学習し、中学理科の内容が終了したあとで、高校の理科の内容を学習します。 3年生では、中学理科の内容として、「生命の連続性」、「運動とエネルギー」、「地球と宇宙」、「化学変化とイオン」、「地球と私たちの未来のために」について学習します。 高校の理科の内容は、「化学基礎」という科目について、学習します。 実験・観察も行いますが、計算問題などの難しい問題の演習も行い、基礎・基本の習得や応用力を身に付けます。
		3章 生物の多様性と進化	3 ささまざまな進化の証拠 4 進化と多様性	○		○	
		単元3 運動とエネルギー	1 物体の運動の記録 2 物体の運動の速さの変化	○			
		1章 物体の運動	3 だんだん速くなる運動 4 だんだんおそくなる運動	○			
	5	2章 力のはたらき方	1 力の合成と分解 2 慣性の法則	○	○		
		中間考査(5/13~5/14)		◎	◎		
		3章 エネルギーと仕事	3 作用・反作用の法則 4 水中ではたらく力		○	○	
6	1章 ささまざまなエネルギー 2 力学的エネルギー	1 ささまざまなエネルギー 2 力学的エネルギー		○			
	3章 仕事と力学的エネルギー	3 仕事と力学的エネルギー		○			
7	4章 仕事の原理と仕事率 5 エネルギーの変換と保存	4 仕事の原理と仕事率 5 エネルギーの変換と保存	○	○			
	単元4 地球と宇宙	1 太陽	○		○		
	期末考査3年(6/25~7/1)		◎	◎			
夏 季	8	1章 地球の運動と天体の動き	1 太陽の1日の動き 2 地球の自転と方位、時刻 3 星の1日の動き	○	○		
		4 天体の1年の動き 5 地軸の傾きと季節の変化	4 天体の1年の動き 5 地軸の傾きと季節の変化	○		○	
二 学 期	9	2章 月と金星の見え方	1 月の満ち欠け 2 日食と月食	○		○	
		3章 宇宙の広がり	3 金星の見え方	○	○		
		1章 太陽系の天体 2 宇宙の広がり	1 太陽系の天体 2 宇宙の広がり	○		○	
	10	単元5 地球と私たちの未来のために	1 生態系	○		○	
		1章 自然のなかの生物	2 生態系における生物の関係 3 炭素の循環と地球温暖化	○		○	
	11	2章 自然環境の調査と保全	1 身近な自然環境の調査 2 人間による活動と自然環境 3 自然環境の開発と保全			○	
		中間考査(10/7~10/8)		◎	◎		
3章 科学技術と人間 地域とつながる		1 ささまざまな物質とその利用 2 エネルギー資源の利用			○		
12	終章 持続可能な社会をつくるために	3 科学技術の発展 自然災害と地域のかかわりを学ぶ			○		
	単元1 化学変化とイオン	1 地球環境と私たちの社会	○		○		
冬 季	1	1章 水溶液とイオン	1 水溶液と電流	○		○	
		2章 酸、アルカリとイオン	2 電解質の水溶液の中で起こる変化 3 イオンと原子のなり立ち		○		
三 学 期	2	1章 酸性やアルカリ性の水溶液の性質	1 酸性やアルカリ性の水溶液の性質	○			
		期末考査3年(11/26~12/2)		◎	◎		
	3	2章 酸性、アルカリ性の正体	2 酸性、アルカリ性の正体	○		○	
		3章 酸とアルカリを混ぜ合わせたときの変化	3 酸とアルカリを混ぜ合わせたときの変化	○		○	
	1	3章 化学変化と電池	1 電解質の水溶液の中の金属板と電流 2 金属のイオンへのなりやすさのちがいと電池のしくみ	○			
		3章 ダニエル電池 4 身のまわりの電池	3 ダニエル電池 4 身のまわりの電池	○		○	
		化学基礎 1編 化学と人間生活 1章 科学とは何か	・身のまわりの化学			○	
2	2章 物質の成分と構成元素	1 物質の成分 2 物質の構成元素 3 物質の三態	○				
	2編 物質の構成	1 原子の構造	○				
3	1章 原子の構造と元素の周期表	2 電子配置と周期表	○				
	学年末考査3年(2/20~2/27)		◎	◎			
3	2章 化学結合	1 イオンとイオン結合	○	○			
	2章 分子と共有結合	2 分子と共有結合	○	○			
3	3章 金属と金属結合 4 化学結合と物質の分類	3 金属と金属結合 4 化学結合と物質の分類	○	○			
	3章 金属と金属結合 4 化学結合と物質の分類	3 金属と金属結合 4 化学結合と物質の分類	○	○			

シ ラ バ ス  
令和7年度

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	理科	科目	化学基礎	学年	4 年	類型	共通	単位数	2 単位
----	----	----	------	----	-----	----	----	-----	------

教科書名	新編 化学基礎	出版社名	東京書籍
------	---------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等		
		単 元	内 容	知	思	主			
一 学 期	4	3編 物質の変化  1章 物質量と化学反応式	1 原子量・分子量・式量		◎	○	<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> 化学基礎の授業では、物質は粒子であるという化学の基本的な考えから始まり、徐々に酸と塩基の中和、酸化と還元、電気分解などの物質の変化に関する内容を学びます。 実験、観察を通して自然現象の中に隠れた法則性に気づき、考えを深めることが大切です。		
			2 物質量		◎	○			
			3 溶液の濃度		◎	○			
		5	中間考査(5/13~5/16)	4 化学反応の表し方 ・化学反応式 ・イオン反応式		◎		○	
				5 化学反応式の表す量的関係 ・化学反応式の表す量的関係		◎		○	
				・化学の諸法則		◎		○	
	7	期末考査(6/25~7/1)			◎	○		<p style="text-align: center;">学 習 の 到 達 目 標</p> ・化学的な事物・現象についての観察、実験を行い、実験技能の向上を図るとともに自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を身に付ける。 ・身の回りの事物・現象の背後に潜む、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成できる。 ・平衡の原理や物質の性質を学び、それらを用いて基本的な化学現象について探究し、日常生活や社会と関連づけて考察できる。	
			2章 酸と塩基	1 酸と塩基 ・酸と塩基の性質 ・酸と塩基の定義 ・広い意味の酸・塩基 ・酸と塩基の価数・酸と塩基の強弱		◎			○
		8	夏季休業日(7/19~8/24)						
9		2 水素イオン濃度とpH ・水素イオン濃度 ・水素イオン濃度とpH ・pH指示薬とpHの測定		◎	○				
		3 中和反応と塩の生成		◎	○				
		4 中和滴定 ・中和反応の量的関係 ・中和滴定		◎	○				
	10	中間考査5年(9/30~10/3) 中間考査4・6年(10/7~10/10) 3章 酸化還元反応	1 酸化と還元 ・酸化と還元 ・酸化数と酸化還元反応		◎	○			
			2 酸化剤と還元剤 ・酸化剤と還元剤 ・電子の授受と酸化還元反応式 ・酸化剤と還元剤のはたらきの強さ ・酸化還元滴定		◎	○			
					◎	○			
二 学 期	11	期末考査(11/26~12/2)			◎	○	<p style="text-align: center;">評 価 の 観 点</p> <p style="text-align: center;">知 識 ・ 技 能</p> 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。		
			3 金属の酸化還元反応 ・金属のイオン化傾向 ・金属の反応性		◎	○			
					◎	○			
	12	冬季休業日(12/20~1/7)							
三 学 期	1	4 酸化還元反応の応用 ・電池の仕組み ・ 実用電池  ・ 金属の精錬 ・ 電気分解		◎	○	<p style="text-align: center;">評 価 方 法</p> 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。			
					◎			○	
					◎			○	
	2	学年末考査4・5年(2/20~2/27)			◎			○	
					◎			○	
					◎			○	
3	問題演習			◎	○		<p style="text-align: center;">備 考</p> 内容は前期課程の理科よりも高度になります。暗記事項や計算事項も増えてきます。週に2回しか授業がありませんから、復習を心がけ、一日一問の問題演習を継続することが大切です。		
				◎	○				
				◎	○				

令和7年度  
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	理科	科目	地学基礎	学年	4年	類型	共通	単位数	2	単位
----	----	----	------	----	----	----	----	-----	---	----

教科書名	地学基礎	出版社名	東京書籍
------	------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一学期	4	1編 私たちの大地	1 地球の形と大きさ		○	◎	<b>授業の概要</b> 一学期は、地球の構造、火山ができる仕組みや、地震が起こる仕組みについて学びます。二学期は、大気の運動とその原因となる太陽放射、地球の歴史について学びます。三学期は、地層の成り立ち、造山運動、太陽と太陽系の成り立ち、宇宙の構造と成り立ちについて学びます。最後に、自然災害への備えや、災害発生時の行動について考えます。
		1章 大地とその動き	2 地球の構造 3 地球内部の動きとプレート 4 大地形の形成と地質構造 5 変成岩と変成作用	○	◎	○	
	5	中間考査(5/13~5/16)		○	◎	○	
		2章 火山活動と地震	1 火山噴火の多様性 2 火成岩 3 地震の発生 4 地震が起こる場所	○	◎	○	
	6			◎	◎	○	
		期末考査(6/25~7/1)		◎	◎	○	
夏季	7	2編 私たちの空と海	1 地球大気の構造	○	◎	◎	<b>学習の到達目標</b> ・自然の事物や現象に関心が持てるようになる。 ・地球表面や内部で起こる運動とそれに伴う地震・火山や造山運動の仕組みについて理解することができる。 ・岩石、鉱物や化石などを観察し、種類の違いを区別できる。 ・太陽放射と地表付近の気象現象との関係について理解できる。 ・水が気象現象に及ぼす影響について理解できる。 ・太陽系の成り立ちについて理解できる。 ・銀河と宇宙の構造、宇宙の成り立ちについて理解できる。 ・地震・火山や気象災害などの自然災害が起こる仕組みを理解し、災害への備えや災害発生時の行動について考えておくことができる。
		1章 地球の熱収支	2 地球の大気で起こる現象		◎	○	
	8	夏季休業日(7/19~8/24)					
二学期	9	2章 大気と海水の運動	3 地球の熱収支 1 大気や海水の運動の原因 2 大気の大循環 3 海水とその運動 4 大気と海洋の相互作用	○	◎	◎	<b>評価の観点</b> <b>知識・技能</b> ・自然の事物や現象に関心が持てるようになる。 ・地球表面や内部で起こる運動とそれに伴う地震・火山や造山運動の仕組みについて理解することができる。 ・岩石、鉱物や化石などを観察し、種類の違いを区別できる。 ・太陽放射と地表付近の気象現象との関係について理解できる。 ・水が気象現象に及ぼす影響について理解できる。 ・太陽系の成り立ちについて理解できる。 ・銀河と宇宙の構造、宇宙の成り立ちについて理解できる。 ・地震・火山や気象災害などの自然災害が起こる仕組みを理解し、災害への備えや災害発生時の行動について考えておくことができる。
		中間考査5年(9/30~10/3)		○	◎	◎	
	中間考査4・6年(10/7~10/10)		◎	◎	○		
	10	4編 私たちの地球の歴史	1 地層の形成	○	◎	◎	
		1章 地層と化石の観察	2 地層からわかる情報	○	◎	◎	
	11	2章 古生物の変遷と地球環境	1 地球史の最初期 3 古生代 5 新生代 7 地球環境の変化による生物の変遷	2 先カンブリア時代 4 中生代 6 人類の進化	○	◎	
期末考査(11/26~12/2)			◎	◎	○		
冬季	12	3編 私たちの宇宙の誕生	1 宇宙の誕生と宇宙の姿	○	◎	◎	<b>主体的に学習に取り組む態度</b> 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と自然環境の保全に寄与しようとしている。
		1章 宇宙の構造と進化	2 太陽系の誕生	○	◎	◎	
三学期	1		3 太陽系の構成 4 太陽の特徴 5 地球の特徴	○	◎	◎	<b>評価方法</b> 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
		5編 地球に生きる私たち	1 日本の自然環境の特徴 3 気象災害と防災	2 日本の自然の恵み	◎	◎	
	2	1章 日本の自然の恵みと防災	4 地震による災害と防災 5 火山による災害と防災	○	◎	◎	
		学年末考査4・5年(2/20~2/27)		◎	◎	○	
	3	終1章 地球環境の考え方 終2章 自然環境の変動	1 地球環境の考え方 2 人間活動がもたらす自然環境の変化 2 代替エネルギー	1 自然環境の変化 1 世界の取り組み 3 持続可能な発展へ	○	◎	
	終3章 これからの地球環境		○	◎	◎		

令和7年度  
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	理科	科目	物理基礎 物理	学年	5 年	類型	理科系	単位数	2 2	単位
----	----	----	------------	----	-----	----	-----	-----	--------	----

教科書名	物理基礎 物理	出版社名	数研出版
------	---------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	知	思	主		
一 学 期	4	第1編 運動とエネルギー	1 速度 2 加速度	○		◎	<p>授業の概要</p> <p>第1編は物理基礎、物理とも力学分野です。主に運動する物体について規則性やエネルギー、またそれらの法則を学びます。</p> <p>第2編は熱・熱エネルギーに関する内容です。物理基礎で、熱に関する諸現象を学び、物理ではそのメカニズムを詳しく学習します。</p> <p>第3編は波に関する内容です。波動現象の基本的な性質や特徴を学び、音や光の諸現象を学習します。</p> <p>物理基礎の第4編は電気分野です。オームの法則や電気エネルギーについて学びます。</p> <p>物理基礎の第5編は、身の回りで利用されているエネルギーや、社会で実用化されている技術に関して、物理的側面からその仕組みを学習します。</p> <p>学習の到達目標</p> <p>・物理的な事物・現象についての観察、実験を行い、実験技能の向上を図るとともに自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を身に付ける。</p> <p>・身の回りの事物・現象の背後に潜む、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成できる。</p> <p>・物理学の基本法則を学び、それらを用いて基本的な物理現象について解析することができる。</p>	
		第1章 運動の表し方	3 落体の運動	◎	○			
		第2章 運動の法則	1 力とのはたらき 2 力のつりあい	◎		○		
		3 運動の法則	3 運動の法則	○		◎		
	5	中間考査(5/13~5/16)			◎	○		
		第3章 仕事と力学的エネルギー	1 仕事	○	◎			
	6		2 運動エネルギー 3 位置エネルギー	○		◎		
			4 力学的エネルギーの保存		○	◎		
		第2編 熱	1 熱と物質の状態		◎	○		
	7	第1章 熱とエネルギー	2 熱と仕事	◎		○		
		期末考査(6/25~7/1)		◎	○			
		第3編 波	1 波と媒質の運動	○		◎		
第1章 波の性質		2 波の伝わり方	○		◎			
夏 季	8	夏季休業日(7/19~8/24)						
	9	第2章 音	1 音の性質 2 発音体の振動と共振・共鳴	◎		○		
第4編 電気 第1章 物質と電気		1 電気の性質 2 電流と電気抵抗 3 電気とエネルギー	◎	○				
第2章 磁場と交流		1 電流と磁場 2 交流と電磁波	○	◎				
第5編 物理学と社会		1 エネルギーの移り変わり	○		◎			
第1章 エネルギーとその利用		2 エネルギー資源と発電 物理学が拓く世界	○	◎				
二 学 期		中間考査5年(9/30~10/3)		◎	○			
		中間考査4・6年(10/7~10/10)	1 平面運動の速度・加速度	○	◎			
	10	第1編 力と運動	2 落体の運動	◎	○			
		第1章 平面内の運動	1 剛体に働く力のつりあい	○		○		
		第2章 剛体	2 剛体にはたらく力の合力と重心	○	◎			
	11	第3章 運動量の保存	1 運動量と力積 2 運動量保存則	○	◎			
		第4章 円運動と万有引力	3 反発係数	◎	○			
		1 等速円運動 2 慣性力	○		◎			
12	期末考査(11/26~12/2)		◎	○				
		3 単振動	◎	○				
		4 万有引力	◎		○			
冬 季	12	冬季休業日(12/20~1/7)						
三 学 期	1	第2編 熱と気体	1 気体の法則 2 気体分子の運動	○		◎	<p>評価方法</p> <p>学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p>備考</p> <p>進度はかなり速くなります。復習を心がけ、一日一問の問題演習を継続することが大切です。</p>	
		第1章 気体のエネルギーと状態変化	3 気体の状態変化	○	◎			
		第3編 波	1 波と媒質の運動 2 正弦波の式	○		◎		
	2	第1章 波の伝わり方	3 波の伝わり方		◎	○		
		第2章 音の伝わり方	1 音の伝わり方	◎		○		
			2 音のドップラー効果	◎		○		
		学年末考査4・5年(2/20~2/27)		◎	○			
3	第3章 光	1 光の性質	○	◎				
		2 レンズと鏡	○	◎				
		3 光の干渉と回折	◎					

令和7年度  
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	理科	科目	化学	学年	5 年	類型	理科系	単位数	2	単位
----	----	----	----	----	-----	----	-----	-----	---	----

教科書名	化学Vol.1理論編	出版社名	東京書籍
------	------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一 学 期	4	化学基礎の復讐	有効数字の計算	○	◎		<b>授 業 の 概 要</b> 第1編は物質の状態と平衡に関する内容です。主に気体・液体・固体の性質や構造について学びます。 第2編は化学反応とエネルギーに関する内容です。化学反応によって生じる熱や光、電池や電気分解のしくみを学習します。 第3編は化学反応の速さと平衡に関する内容です。反応速度の理論や可逆反応における平衡移動およびその法則などを学習します。 化学の第4編と第5編以降は、主に6年生で学習します。
		1編 物質の状態 1章 物質の状態	1 物質の三態 2 気体・液体間の状態変化	◎	○		
	5	中間考査(5/13~5/16)		◎	◎		
		2章 気体の性質	1 気体 2 気体の状態方程式	◎		○	
	6			◎	◎		
		期末考査(6/25~7/1)		◎	◎		
	7	3章 溶液の性質	1 溶解 2 気薄溶液の性質		◎	○	
夏季休業日(7/19~8/24)							
二 学 期	9	4章 固体の構造	3 コロイド 1 結晶 2 金属結晶の構造 3 イオン結晶の構造 4 分子結晶と共有結合の結晶	◎	○		・化学的な事物・現象についての観察、実験を行い、実験技能の向上を図るとともに自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を身に付ける。 ・身の回りの事物・現象の背後に潜む、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成できる。 ・化学の基本法則を学び、それらを用いて基本的な化学現象について解析することができる。
		中間考査5年(9/30~10/3)		◎	◎		
	10	中間考査4・6年(10/7~10/10)		◎	◎		
		2編 化学反応とエネルギー 1章 化学反応と熱・光	1 反応とエンタルピー変化 2 ヘスの法則 3 光とエネルギー	◎		○	
	11	2章 電池と電気分解	1 電池 2 電気分解	◎	◎		
		期末考査(11/26~12/2)		◎	◎		
	12	3編 化学反応の速さと平衡 1章 化学反応の速さ	1 反応の速さ 2 反応速度を変える条件	◎		○	
冬季休業日(12/20~1/7)							
三 学 期	1	2章 化学平衡	3 反応の仕組み 1 可逆反応と化学平衡 2 平行移動	◎	◎	○	<b>評 価 方 法</b> 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
		学年末考査4・5年(2/20~2/27)		◎	◎		
	3		1 電離平衡 2 塩の水への溶解	◎	◎		
				◎	◎		

令和7年度  
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	理科	科目	生物基礎	学年	5年	類型	文科系	単位数	2	単位
----	----	----	------	----	----	----	-----	-----	---	----

教科書名	高等学校 生物基礎	出版社名	数研出版
------	-----------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	知	思	主		
一学期	4	第1編 生物の特徴	第1節 生物の多様性と共通性	○	○	◎	<b>授業の概要</b> 生物の共通性について考え、遺伝子やタンパク質の合成、ヒトを中心とした動物の生理、生物の多様性に注目した生態系などについて大まかに広く学びます。 座学だけでなく、観察、実験などの探究活動を通して、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を考察し、科学的な見方や考え方を身に付けます。  <b>学習の到達目標</b> ・日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身に付ける。 ・生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身に付ける。	
		第1章 生物の特徴	第2節 エネルギーと代謝	○	○	◎		
			第3節 呼吸と光合成	○	○	◎		
			知識の確認・補充問題	◎	◎			
	5	中間考査(5/13~5/16)	知識の確認・補充問題	◎	◎			
		第2章 遺伝子とのはたらき	第1節 遺伝情報とDNA	○	○	◎		
	6			第2節 遺伝情報の複製と分配	○	○		◎
				第3節 遺伝情報の発現	○	○		◎
				知識の確認・補充問題	◎	◎		
				知識の確認・補充問題	◎	◎		
	7	期末考査(6/25~7/1)		◎	◎			
			知識の確認・補充問題	◎	◎			
8	夏季休業日(7/19~8/24)							
		知識の確認・補充問題	◎	◎				
二学期	9	第2編 ヒトの体内環境の維持	第1節 体内での情報伝達と調節	○	○	◎	<b>評価の観点</b> <b>知識・技能</b> 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。  <b>思考・判断・表現</b> 自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。  <b>主体的に学習に取り組む態度</b> 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	
		第3章 ヒトの体内環境の維持	第2節 体内環境の維持のしくみ	○	○	◎		
			知識の確認・補充問題	○	○	◎		
			知識の確認・補充問題	◎	◎			
	10	中間考査5年(9/30~10/3)		◎	◎			
		中間考査4・6年(10/7~10/10)		◎	◎			
	11			第3節 免疫のはたらき	○	○		◎
				第1節 植生と遷移	○	○		◎
				第2節 植生の分布とバイオーム	○	○		◎
				知識の確認・補充問題	◎	◎		
	12	期末考査(11/26~12/2)		◎	◎			
			第3節 生態系と生物の多様性	○	○	◎		
1	冬季休業日(12/20~1/7)							
		第4節 生態系のバランスと保全	○	○	◎			
三学期	2		知識の確認・補充問題	◎	◎			
			知識の確認・補充問題	◎	◎			
			知識の確認・補充問題	◎	◎			
			知識の確認・補充問題	◎	◎			
	学年末考査4・5年(2/20~2/27)		◎	◎				
	3	探究活動1		◎	○	◎		
探究活動2			◎	○	◎			
	探究活動3		◎	○	◎			
							備考	

令和7年度  
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	理科	科目	生物基礎 生物	学年	5 年	類型	理科系	単位数	2 2	単位
----	----	----	------------	----	-----	----	-----	-----	--------	----

教科書名	高等学校 生物基礎・生物	出版社名	数研出版
------	--------------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	生物基礎 第1編 生物の特徴	第1節 生物の多様性と共通性	○	○	◎	<b>授 業 の 概 要</b> 生物基礎の授業では、生物の共通性について考え、遺伝子やタンパク質の合成、ヒトを中心とした動物の生理、生物の多様性に注目した生態系などについて大まかに広く学びます。 生物の授業では、生物基礎の内容をベースに、さらに広く深く学びます。5年次には、生物の進化、細胞と分子、代謝、遺伝情報の発現と発生について学びます。 座学だけでなく、観察、実験などの探究活動を通して、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を考察し、科学的な見方や考え方を身に付けることができます。
		第1章 生物の特徴	第2節 エネルギーと代謝	○	○	◎	
		第2章 遺伝子とそのはたらき	第3節 呼吸と光合成 知識の確認・補充問題	◎	◎	◎	
		第1節 遺伝情報とDNA	○	○	◎		
	5	第2節 遺伝情報の複製と分配	○	○	◎		
		中間考査(5/13～5/16)	◎	◎			
		第3節 遺伝情報の発現	○	○	◎		
6	第2編 ヒトの体内環境の維持	知識の確認・補充問題	◎	◎			
	第3章 ヒトの体内環境の維持	第1節 体内での情報伝達と調節	○	○	◎		
	第2節 体内環境の維持のしくみ	○	○	◎			
	第3節 免疫のはたらき	○	○	◎			
7	期末考査(6/25～7/1)	◎	◎				
		知識の確認・補充問題	◎	◎			
		知識の確認・補充問題	◎	◎			
夏 季	8	夏季休業日(7/19～8/24)					
	9	第3編 生物の多様性と生態系	第1節 植生と遷移	○	○	◎	
第4章 生物の多様性と生態系		第2節 植生の分布とバイオーム	○	○	◎		
第3節 生態系と生物の多様性		○	○	◎			
第4節 生態系のバランスと保全		○	○	◎			
二 学 期	10	中間考査5年(9/30～10/3)	◎	◎			
		中間考査4・6年(10/7～10/10)	◎	◎			
	生物 第1編 生物の進化	第1節 生命の起源と生物の進化 第2節 遺伝子の変化と多様性	○	○	◎		
	第1章 生物の進化	第3節 遺伝子の組み合わせの変化 第4節 進化のしくみ	○	○	◎		
	第5節 生物の系統と進化 第6節 人類の系統と進化	○	○	◎			
	第2編 生命現象と物質	第1節 生体物質と細胞 第2節 タンパク質の構造と性質	○	○	◎		
11	第2章 細胞と分子	○	○	◎			
	期末考査(11/26～12/2)	◎	◎				
	12	第3節 化学反応にかかわるタンパク質 第4節 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	○	○	◎		
知識の確認・補充問題		◎	◎				
冬 季	12	冬季休業日(12/20～1/7)					
	三 学 期	第3章 代謝	第1節 代謝とエネルギー 第2節 代謝と発酵	○	○	◎	
第3節 光合成		○	○	◎			
知識の確認・補充問題		◎	◎				
第3編 遺伝情報の発現と発生		第1節 DNAの構造と複製 第2節 遺伝情報の発現	○	○	◎		
2	第4章 遺伝情報の発現と発生	第3節 遺伝子の発現調節	○	○	◎		
	学年末考査4・5年(2/20～2/27)	◎	◎				
	3	第4節 発生と遺伝子発現	○	○	◎		
第5節 遺伝子を扱う技術		○	○	◎			
知識の確認・補充問題		◎	◎				

令和7年度  
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	理科	科目	探究理科 I (化学分野)	学年	5 年	類型	文科系	単位数	2	単位
----	----	----	------------------	----	-----	----	-----	-----	---	----

教科書名	理科学習資料 探究	出版社名	愛媛県高等学校教育研究会理科部会
------	-----------	------	------------------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一 学 期	4	有効数字の計算	有効数字の計算	○	◎		<b>授 業 の 概 要</b> 身の回りの産業やそこで利用されている科学的な仕組みについて学習し理解を深めた後、化学基礎の内容を復習していきます。4年次にできなかった実験や観察を行い、科学的な考え方や態度を身に付けます。3学期には、化学分野における総復習の意味で、問題演習を中心として学力の定着を図ります。
		物質の構成 1章 原子の構造と元素の周期表	1 原子の構造	◎	◎		
		1 物質の構成粒子	2 電子配置と周期表	◎			
		中間考査(5/13~5/16)		◎	◎		
	5	2 化学結合	1 イオンとイオン結合	◎		○	
			2 分子と共有結合	◎		○	
			3 金属と金属結合	◎		○	
6	期末考査(6/25~7/1)		◎	◎			
		4 化学結合と物質の分類	◎		○		
7			◎		○		
			◎		○		
夏 季	8	夏季休業日(7/19~8/24)					
二 学 期	9	物質の変化 1章 物質量と化学反応式	1 原子量・分子量・数料	○	◎		<b>学 習 の 到 達 目 標</b> ・自然における化学の基本的な概念や原理・法則を理解すると同時に、これらを活用して新しい事物や、複雑な事象の奥にある原理や法則を解明する能力を養う。 ・物質や物質の状態・変化について化学的に考察する態度と能力を養い、科学的に正しい物質観を育てる。
			2 物質量	○	◎		
			3 溶液の濃度	○	◎		
	中間考査5年(9/30~10/3)		◎	◎			
	中間考査4・6年(10/7~10/10)		◎	◎			
	10	4 化学反応の表し方	◎	○			
		5 化学反応式の表す量的関係	○	◎			
	11	2章 酸と塩基	1 酸と塩基	◎		○	
			2 水素イオン濃度とpH	○	◎		
			3 中和反応と塩の生成	○	◎		
12	期末考査(11/26~12/2)		◎	◎			
		4 中和滴定	○	◎			
冬 季	12	冬季休業日(12/20~1/7)					
三 学 期	1	3章 酸化と還元	1 酸化と還元	◎		○	<b>評 価 方 法</b> 学習の状況は「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
			2 酸化剤と還元剤	○	◎		
			3 金属の酸化還元反応	◎	○		
			4 酸化還元反応の応用	○	◎		
	問題演習	問題演習	◎	◎			
2	学年末考査4・5年(2/20~2/27)		◎	◎			
			◎	◎			
	問題演習	問題演習	◎	◎			
3			◎	◎			
			◎	◎			



令和7年度  
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	理科	科目	探究理科 I (地学分野)	学年	5 年	類型	文科系	単位数	2	単位
----	----	----	------------------	----	-----	----	-----	-----	---	----

教科書名	理科学習資料 探究	出版社名	愛媛県高等学校教育研究会理科部会
------	-----------	------	------------------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一学期	4	1 四国の自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四国の地質</li> <li>・火成岩の観察 ・堆積岩の観察</li> <li>・変成岩の観察</li> <li>・地層の形成</li> <li>・岩石薄片の観察</li> </ul>	◎		○	<b>授業の概要</b> 一学期は、四国の地質について学び、四国の成り立ちについて考察します。また四国で発生する地震のメカニズムと想定される災害について学び、今後の防災への備えについて考えます。 二学期は、火山噴火の仕組みと災害、大気の運動の仕組みと気候との関係、四国の気象災害、愛媛に縁のある先人や産業について学びます。 三学期は、今まで学んだことを生かし、問題演習を通して地学分野に関する理解を深めていきます。
		中間考査(5/13~5/16)					
		2 地震と災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震発生のメカニズム</li> <li>・四国沖で発生する地震</li> <li>・四国の活断層と地形</li> <li>・地震による災害と防災</li> <li>・家庭での防災の取組</li> </ul>	◎	◎	○	
		6					
	7	3 火山と災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マグマの成分と火山噴火との関係</li> <li>・火山災害</li> </ul>	◎	◎	○	
	8	夏季休業日(7/19~8/24)					
	9	4 気象と災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の気候</li> <li>・世界の気候</li> <li>・大気の大循環</li> <li>・日本付近の気団</li> <li>・四国の気象災害 ・気候と海流</li> </ul>	◎	◎	○	
二学期	10	中間考査5年(9/30~10/3)					<b>学習の到達目標</b> ・自然の事物や現象に関心が持てるようになる。 ・四国の成り立ちと、現在も起こる地震とその災害について理解し、防災意識を高めることができる。 ・日本で起こる火山災害、気候の仕組みと四国で発生する気象災害について理解し、防災意識を高めることができる。 ・愛媛に縁のある先人や産業について理解できる。 ・人間の生活と自然環境との相互作用を理解し、持続可能な社会を構築するための行動目標を設定することができる。
		中間考査4・6年(10/7~10/10)	・大野作太郎と化石	◎		◎	
		5 愛媛の先達・産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別子鉱山</li> <li>・ドロマイト鉱山</li> </ul>	◎		◎	
	11	6 人間の生活と自然環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間活動と自然との相互作用</li> <li>・持続可能な社会</li> <li>・まとめ</li> </ul>	◎	◎	○	
		問題演習	・問題演習	◎	◎	○	
		12	問題演習	・問題演習	◎	◎	
	12	問題演習	・問題演習	◎	◎	○	
問題演習		・問題演習	◎	◎	○		
問題演習		・問題演習	◎	◎	○		
三学期	1	問題演習	・問題演習	◎	◎	○	<b>評価の方法</b> 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
		問題演習	・問題演習	◎	◎	○	
		問題演習	・問題演習	◎	◎	○	
	2	問題演習	・問題演習	◎	◎	○	
		問題演習	・問題演習	◎	◎	○	
		問題演習	・問題演習	◎	◎	○	
	3	問題演習	・問題演習	◎	◎	○	
問題演習		・問題演習	◎	◎	○		

令和7年度  
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	理科	科目	物理	学年	6年	類型	理科系	単位数	4	単位
----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	---	----

教科書名	物理	出版社名	数研出版
------	----	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一学期	4	第2章 音の伝わり方	1 音の伝わり方	◎		○	<b>授業の概要</b> 第4編は電磁気分野です。オームの法則や電気エネルギー、磁気に関する内容を学び、電流と磁気の関連性について学習を深めていきます。 第5編は、原子に関する内容です。ミクロな世界における、物質の粒子性と波動性や、原子の構造、原子核の反応について学習します。
		第3章 光	2 音のドップラー効果	◎		○	
			1 光の性質	○	◎		
			2 レンズと鏡	○	◎		
	5	3 光の干渉と回折	◎				
		中間考査(5/13~5/16)	◎	○			
	6	4編 電気と磁気	1 静電気力 2 電場 3 電位	○		◎	
		1章 電場	4 物質と電場 5 コンデンサー	◎	○		
		2章 電流	1 オームの法則 2 直流回路 3 半導体	◎	○		
		3章 電流と磁場	1 磁場 2 電流の作る磁場	◎	○		
	7	3 電流が磁場から受ける力 4 ローレンツ力		◎			
				◎			
期末考査(6/25~7/1)			◎	○			
4章 電磁誘導と電磁波		1 電磁誘導の法則	○		◎		
8	2 自己誘導と相互誘導	◎	○				
	夏季休業日(7/19~8/24)						
二学期	9	3 交流の発生	◎	○			
		4 交流回路	◎	○			
		5 電磁波	○		◎		
		5編 原子	1 電子	○	○		
	10	1章 電子と光	2 光の粒子性 3 X線	○	○		
		中間考査5年(9/30~10/3)	4 粒子の波動性	◎		○	
		中間考査4・6年(10/7~10/10)		◎	○		
		2章 原子と原子核	1 原子の構造とエネルギー準位	○	○		
	11	2 原子核	◎	○			
		3 放射線とその性質	○				
		4 核反応と核エネルギー	◎	○			
		5 素粒子	○		◎		
12	期末考査(11/26~12/2)		◎	○			
	問題演習	問題演習	◎	○			
			◎	○			
			◎	○			
冬季	冬季休業日(12/20~1/7)						
	問題演習	問題演習	◎	○			
			◎	○			
三学期	1	家庭学習		◎	○	<b>評価方法</b> 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
				◎	○		
				◎	○		
2			◎	○	備考		
			◎	○			
3			◎	○			

令和7年度  
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	理科	科目	化学	学年	6年	類型	理科系	単位数	3	単位
----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	---	----

教科書名	化学 vol.2 物質編	出版社名	東京書籍
------	--------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	知	思	主		
一学期	4	4編 無機物質 1章 周期表と元素	1 周期表と元素	○	○	◎	<p>授業の概要</p> <p>化学では、前年度から引き続いた内容を学習します。</p> <p>4編「無機物質」では、非金属元素や金属元素について、単体・化合物の性質を学びます。</p> <p>5編「有機化合物」の分野では、有機化合物について、基本的な構造、官能基による性質の違いなどについて、実験・観察などを通して学びます。</p> <p>6編「高分子化合物」の分野では、日常生活と関連付けながら、高分子化合物の反応性や性質・特徴について学びます。</p> <p>学習の到達目標</p> <p>・化学的な事物・現象についての観察、実験を行い、実験技能の向上を図るとともに自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を身に付ける。</p> <p>・身の回りの事物・現象の背後に潜む、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成できる。</p> <p>・平衡の原理や物質の性質を学び、それらを用いて基本的な化学現象について探究し、日常生活や社会と関連付けて考察できる。</p>	
		2章 非金属元素の単体と化合物	1 水素とその化合物 2 貴ガス 3 酸素とその化合物	○	○	◎		
		4 ハロゲンとその化合物 5 硫黄とその化合物 実験 ハロゲンの性質			◎	○		
		6 窒素・リンとその化合物		◎		○		
	5	中間考査(5/13~5/16)			◎	○		
		3章 典型元素の単体と化合物	1 アルカリ金属とその化合物 2 アルカリ土類金属とその化合物	○	○	◎		
	6	4章 遷移元素の単体と化合物	3 1, 2族以外の典型金属元素とその化合物	◎		○		
1 遷移元素の特徴			○	○	◎			
2 遷移元素とその化合物		◎		○				
5章 金属イオンの分離と確認		1 金属イオンが検出できる反応 2 金属イオンの系統分離と確認 実験 陽イオンの反応		◎	○			
	7	5編 有機化合物	1 有機化合物の特徴	◎	○			
		1章 有機化合物の特徴と構造	2 有機化合物の構造式の決定	◎		○		
夏季	8	夏季休業日(7/19~8/24)						
	9	2章 炭化水素	1 飽和炭化水素	○	○	◎		
二学期	9	3章 アルコールと関連化合物	2 不飽和炭化水素	◎		○		
			1 アルコールとエーテル	○	○	◎		
			2 アルデヒドとケトン 3 カルボン酸 実験 アルコールとアルデヒド		◎	○		
			4 エステル・油脂・セッケン	◎		○		
			中間考査5年(9/30~10/3)		◎	○		
			中間考査4・6年(10/7~10/10)		◎	○		
	10	4章 芳香族化合物	1 芳香族炭化水素	○	○	◎		
11	6編 高分子化合物 1章 高分子化合物とは何か	2 フェノール類と芳香族カルボン酸 実験 サリチル酸のエステル		◎	○			
		3 芳香族アミンとアゾ化合物 4 芳香族化合物の分離	◎		○			
		1 高分子化合物の分類と特徴	○	○	◎			
	2章 天然高分子化合物	1 単糖類と二糖類 2 多糖類	○	○	◎			
		3 アミノ酸 4 タンパク質 実験 アミノ酸およびタンパク質の性質		◎	○			
	12	3章 合成高分子化合物	1 合成繊維 2 合成樹脂	◎	○			
			3 ゴム	◎		○		
冬季		冬季休業日(12/20~1/7)						
	1	問題演習		◎	○			
三学期	2	家庭学習		◎	○			
				◎	○			
	3			◎	○			
				評価方法			<p>学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p>	
				備考				

令和7年度  
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	理科	科目	生物基礎	学年	6年	類型	文科系	単位数	2	単位
----	----	----	------	----	----	----	-----	-----	---	----

教科書名	高等学校 生物基礎	出版社名	数研出版
------	-----------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	知	思	主		
一学期	4	演習問題(生物の特徴)	問題演習(エネルギーと代謝・呼吸と光合成)	○		○	<b>授業の概要</b> 教科書内容の学習を一通り終わると、発展的な内容や探究活動に取り組みます。生物や生物現象の特徴は、共通性が見られると同時に多様性があることを理解し、要因を個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的に捉える能力を養います。  <b>学習の到達目標</b> ・5年次に学習した内容を基に、自然界の事象を分析的、総合的に考察する能力と態度を育成するとともに、豊かな科学的素養を養い、共通テスト問題に対応できる学力を身に付ける。	
		探究活動	観察・実験	○		○		
	5	中間考査(5/13~5/16)			◎	◎		
		演習問題(遺伝子とそのはたらき)	問題演習(遺伝情報の複製・分配)	○		○		
		探究活動	観察・実験	○		○		
	6			○		○		
				○		○		
	期末考査(6/25~7/1)		◎	◎				
7	演習問題(ヒトの体内環境の維持)	問題演習(体内環境の維持のしくみ)	○		○			
			○		○			
夏季	8	夏季休業日(7/19~8/24)						
二学期	9	演習問題(ヒトの体内環境の維持)	問題演習(免疫のはたらき)	○		○	<b>評価の観点</b> <b>知識・技能</b> 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。  <b>思考・判断・表現</b> 自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。  <b>主体的に学習に取り組む態度</b> 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	
		探究活動	観察・実験	○		○		
		中間考査5年(9/30~10/3)		○	◎			
		中間考査4・6年(10/7~10/10)		◎	◎			
	10	演習問題(生物の多様性と生態系)	問題演習(植生の遷移)	○		○		
		探究活動	観察・実験	○		○		
	11			○		○		
			○		○			
	期末考査(11/26~12/2)		◎	◎				
12	演習問題(生物の多様性と生態系)	問題演習(植生の分布とバイオーム)	○		○			
			○		○			
冬季	12	冬季休業日(12/20~1/7)						
三学期	1	演習問題(生物の多様性と生態系)	問題演習(生態系のバランスと保全)	○		○	<b>評価方法</b> 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやプリント課題)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
			家庭学習	○		○		
	2			○		○		
	3							
							<b>備考</b>	

令和7年度  
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	理科	科目	生物	学年	6年	類型	理科系	単位数	4	単位
----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	---	----

教科書名	生物	出版社名	数研出版
------	----	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一学期	4	第4編 生物の環境応答	第1節 刺激の受容	○	○	◎	<p>授業の概要</p> <p>前年度に引き続き、生物基礎の内容を基に生物の内容を学習します。第4編第5章では外界からの刺激に反応し、神経系を介して反応や行動が起こるしくみについて学習します。第4編第6章では植物の成長や反応に植物ホルモンがどのように関わっているのかを学習します。第5編第7章では生態系における生物どうしの関係や、人間生活による生態系への影響について学習します。</p> <p>学習の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を養う。</li> <li>・生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。</li> <li>・観察や実験、探究活動を行い、得られた結果について自分で考察することで分析する力や思考する力を養う。</li> </ul>
		第5章 動物の反応と行動	第2節 ニューロンとその興奮	○	○	◎	
			第3節 情報の統合	○	○	◎	
			第4節 刺激への反応	○	○	◎	
			第5節 動物の行動 知識の確認・補充問題	◎	◎	◎	
		5	中間考査(5/13~5/16)	◎	◎		
	6	第6章 植物の環境応答	第1節 植物の生活と植物ホルモン	○	○	◎	
			第2節 発芽の調節 第3節 成長の調節	○	○	◎	
			第4節 器官の分化と花芽形成の調節	○	○	◎	
			第5節 環境の変化に対する応答	○	○	◎	
			第6節 配偶子形成と受精 知識の確認・補充問題	◎	◎	◎	
			期末考査(6/25~7/1)	◎	◎		
7	第5編 生態と環境	第1節 個体群の構造と性質	○	○	◎		
	第7章 生物群集と生態系	第2節 個体群内の個体間の関係	○	○	◎		
夏季	8	夏季休業日(7/19~8/24)					
	9		第3節 異なる種の個体群間の関係	○	○	◎	
		第4節 生態系の物質生産と物質循環	○	○	◎		
		第5節 生態系と人間生活	○	○	◎		
		知識の確認・補充問題	◎	◎			
		中間考査5年(9/30~10/3)	◎	◎			
二学期	10	中間考査4・6年(10/7~10/10)					
		演習問題	問題演習	○	○		
	11			○	○		
				○	○		
				○	○		
		期末考査(11/26~12/2)	◎	◎			
12	演習問題	問題演習	○	○			
			○	○			
冬季	12	冬季休業日(12/20~1/7)					
	1	演習問題	問題演習	○	○		
2			家庭学習	○	○		
				○	○		
三学期	3			○	○		
				○	○		
							備考

令和7年度  
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	理科	科目	探究理科Ⅱ (化学分野)	学年	6年	類型	文科系	単位数	2	単位
----	----	----	-----------------	----	----	----	-----	-----	---	----

教科書名	化学基礎・化学実験ノート	出版社名	愛媛県高等学校教育研究会理科部会化学部門
------	--------------	------	----------------------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	知	思	主		
一 学 期	4	I 物質の構成	1 物質の成分と構成元素	○	○	◎	<b>授 業 の 概 要</b> 基本的には、化学基礎の内容を復習していきます。また、4・5年次にできなかった実験も行い、化学現象の理解を深めていきます。2学期の後半からは総合問題で、大学入学共通テストにも対応できる力を養っていきます。	
			2 原子の構成と元素の周期表	○	○	◎		
			3 化学結合	○	○	◎		
			4 化学結合と結晶	○	○	◎		
	5	中間考査(5/13~5/16)		◎	◎			
	6	II 物質の変化	1 物質量と濃度	○	○	◎		
			2 化学反応と化学反応式	◎		○		
			◎		○			
7	期末考査(6/25~7/1)		◎	○				
夏 季	8	夏季休業日(7/19~8/24)						
	9	4 中和と塩 5 酸化還元反応 実験 酸化と還元 6 電池と電気分解	3 酸と塩基・水素イオン濃度 実験 中和滴定	○	○	◎	・自然における化学の基本的な概念や原理・法則を理解すると同時に、これらを活用して新しい事物や、複雑な事象の奥にある原理や法則を解明する能力を養う。 ・物質や物質の状態・変化について化学的に考察する態度と能力を養い、科学的に正しい物質観を育成できる。	
				◎	○			
				◎	○			
				◎	○			
				◎	○			
二 学 期	10	7 物質の変化と熱	中間考査5年(9/30~10/3)	◎		○	<b>評 価 の 観 点</b> <b>知識・技能</b> 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果から自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	
			中間考査4・6年(10/7~10/10)	◎	○			
			総合問題	◎	○			
	11	問題演習		◎	○			<b>思考・判断・表現</b> 自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。観察・実験の結果を実験ノートやレポートに的確に記録、整理している。
				◎	○			
				◎	○			
12	期末考査(11/26~12/2)		◎	○		<b>主体的に学習に取り組む態度</b> 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。		
			◎	○				
冬 季	1	冬季休業日(12/20~1/7)						
三 学 期	1	家庭学習		◎	○		<b>評 価 方 法</b> 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
				◎	○			
				◎	○			
2				◎	○			
				◎	○			
3				◎	○			
				◎	○			
							<b>備 考</b>	

